

仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修体系

分類	対象者	獲得目標	主な内容(講義とグループワーク)
基礎編	障害福祉に初めて携わる方 または基礎を改めて学びたい方	<p><個別支援></p> <p>●障害児者支援の基本的な考え方や手法を理解する。</p> <p>①生活者の視点に立った障害者(児)支援のニーズを理解する。</p> <p>②ニーズに近づくためのプロセスや考え方や手法を理解する。</p> <p>③チームアプローチを理解する。</p>	<p>○生活全体を視野に入れ、社会参加を考える(ICFの視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンパワメントやストレングスの視点に立ったアセスメント ・「本人主体」「障害があっても自分らしく生きる」とは? ・「ニーズ」と「デマンド」の違いとは? ・相談者との信頼関係を作るには(面接技法等) ・家族支援 ・チームアプローチの実践 <p>多機関多職種協働により、視点を広げ、抱え込まない</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援に携わるうえで、大切なこと(職業倫理、相談姿勢、ビジネスマナー、権利擁護) (法制度やサービス体系の理解、支援者のメンタルヘルス) ・記録の書き方
		<p><地域支援></p> <p>①個別支援で把握した課題を共有する機会の大切さを理解する。</p> <p>②地域内にある他の事業所を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多機関・多職種による共同訪問にあたって(場を共有する重要性、視点の違いや他のアプローチから得た気づき) ・抱え込まない支援とは ・地域内にある社会資源(関係機関)の存在と役割を知る ・自立支援協議会について
		<p><人材育成></p> <p>①自分の得意不得意を知る。</p> <p>②自分の研修計画を立てられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立場や経歴が違う支援者と情報交換をする機会の重要性(新たな気づきを得る、孤独感の解消) ・自分に必要な学びに関する情報を得て、主体的に研修会に参加する ・感情のコントロール、メンタルヘルスのセルフケア
実践編	研修希望者・獲得目標を習得する必要があると事業所が認めた方	<p><個別支援></p> <p>●障害児者支援の基本的な考え方や手法を踏まえた実践ができる</p> <p>①生活全般にわたるアセスメントを丁寧に行い、利用者主体で本人の希望や楽しみ、ストレングス等をくみ、支援に反映することができる</p> <p>②支援希求が弱い方や重度障害児者等の意思形成及び表明の支援(意思決定支援)を適切に行い、ニーズを把握することができる。</p> <p>③チームアプローチを実践できる。</p>	<p>※基礎編を発展させた内容</p> <p>① 生活全体を視野に入れ、社会参加を考える(ICFの視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人主体・ストレングス・エンパワメントの視点を再確認 ・アセスメントの根拠と支援方針 <p>②支援困難事例の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談開始から終結まで、支援の展開方法 ・自分がかかわったケースを検討し、振り返る <p>③多機関連携、チームアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの拡大や展開 ・事例を検討する場の設定、基本的ルールを考える
		<p><地域支援></p> <p>①個別支援で把握したニーズを地域の課題として考えることができる。</p> <p>②生活者レベルで各地域の特徴を把握し、社会資源の変遷に応じて支援ネットワークを形成できる。</p> <p>③既存の社会資源の活用に加え、それだけでは満たせないニーズに対して社会資源開発に取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生社会の実現」に向けて必要となる内容、現場を知る ・個別支援と各市区自立支援協議会との連動を考える ・既存の社会資源を知る ・多機関多職種で話し合い、視点を広げ、抱え込まない支援体制 ・他県の実践を知る。 ・福祉に限らず他分野にも視野を広げる(医療、児童福祉、教育、雇用、司法、引きこもり、生活困窮等)
		<p><人材育成></p> <p>①対人援助職としての価値観を自覚し、振り返ることができる。</p> <p>②組織内外において、事例検討会やケースレビュー等の運営をするためのスキルを学ぶことができる。</p> <p>③チームアプローチを実践できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己覚知(自分の価値観、長所や短所を振り返る) ・感情のコントロール、メンタルヘルスのセルフケア ・レビューと事例検討の違いを意識し、ルールや運営方法を考える ・人の意見を聞いてまとめる力を高める ・支援の基礎に立ち戻る ・障害特性理解に関する内容を深める ・企画、プレゼンテーションのスキルを高める ・互いに学びを深め、スキルを高め合う ・多職種協働(共同訪問により現場を共有する、視点の違いに気づく) ・仕事の効率化、OJTについて再考する